

開講期間 後期	配当年 1学年	単位数 2単位	科目必選区分 助産師必修
担当教員			
◎常盤洋子、増澤祐子、高林知佳子、野口裕子、高館陽子			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 後期	【授業時間】 30時間					
	【担当教員】 【氏名】 ◎常盤 洋子 増澤 祐子 高林 知佳子 野口 裕子 高館 陽子	【所属】 新潟県立看護大学 同上 同上 同上 新潟県助産師会	【研究室】 320 304 209	【メールアドレス】 yotokiwa@niigata-cn.ac.jp takabaya@niigata-cn.ac.jp yuko@niigata-cn.ac.jp			
【本学の科目区分】 専門科目							
		【D P 1】 <input type="radio"/>	【D P 2】 <input checked="" type="radio"/>	【D P 3】 <input type="radio"/>	【D P 4】 <input type="radio"/>	【D P 5】 <input type="radio"/>	【D P 6】 <input checked="" type="radio"/>

到達目標	1. 地域母子保健の概念と意義を述べることができる。 2. 地域母子保健の現状と動向の理解し、地域における母子支援・政策的課題について考えを述べることができる。 3. 地域母子支援を展開していくためのヘルスプロモーション理論について述べることができる。 4. 地域における母子支援を展開するための地域診断の必要性と過程を述べることができる。 5. 子育て世代包括支援における助産師の役割を述べることができる。
授業概要	地域母子保健の概念と意義、地域母子保健の現状と動向の理解を基盤とし、地域における母子への支援や政策的課題を研究的視点から考察する。また、周産期におけるメンタルヘルス等、地域における母子支援を展開していくための理論、地域診断に必要な知識・技術を学修し、ヘルスプロモーションに基づく効果的な母子保健事業の計画・実施・評価について理解する。多職種と連携・協働しながら母子の暮らしを見据えて子育て世代を包括的に支援するために必要な理論や方法を理解し、助産師のリーダーシップ発揮について探求する。
授業計画	1 授業内容 授業形態：講義 学修課題：地域母子保健の概念 学修内容：地域母子保健の概念と意義 備考：常盤・増澤 2 授業内容 授業形態：講義 学修課題：母子保健の現状と動向 学修内容：母子保健の現状と動向からみる母子保健の課題 備考：常盤・増澤 3 授業内容 授業形態：講義 学修課題：母子保健の現状と動向 学修内容：母子保健の現状と動向からとらえる母子支援の課題 備考：常盤・増澤 4 授業内容 授業形態：講義 学修課題：母子保健の現状と動向 学修内容：母子保健の現状と動向からとらえる地域における母子支援・政策的課題 備考：常盤・増澤 5 授業内容 授業形態：演習、討論 学修課題：主な母子保健制度と関連法規 学修内容：主な母子保健制度と関連法規と助産師の役割 備考：常盤・増澤 6 授業内容 授業形態：演習、討論 学修課題：母子保健施策と助産師の役割 学修内容：母子保健施策における助産師の役割 備考：常盤・増澤 7 授業内容 授業形態：演習、討論

	学修課題：母子保健計画・事業への参画 学修内容：母子保健計画・事業への参画（関係機関・関係職種との連携） 備考：常盤・増澤 授業内容 授業形態：プレゼンテーション、討論 学修課題：母子保健計画・事業への参画 学修内容：母子保健計画・事業への参画（関係機関・関係職種との連携における助産師の役割） 備考：常盤・増澤 授業内容 授業形態：講義 学修課題：地域母子支援の展開 学修内容：地域母子支援の展開とヘルスプロモーション理論 備考：常盤・増澤 授業内容 授業形態：講義、ディスカッション 学修課題：ヘルスプロモーション理論 学修内容：ヘルスプロモーション理論を活用した地域母子支援の展開 備考：常盤・増澤 授業内容 授業形態：講義 学修課題：地域母子保健の概要と地域診断 学修内容：地域母子保健に関わる地域診断の概要 備考：高林 授業内容 授業形態：講義 学修課題：地域母子保健の概要と地域診断 学修内容：地域母子保健に関わる地域診断の実際 備考：野口 授業内容 授業形態：講義 学修課題：地域母子保健の実践 学修内容：新潟県の地域母子保健活動における助産師の実践 備考：高館 授業内容 授業形態：演習・討論 学修課題：子育て世代包括支援の概要と助産師の役割 学修内容：こども家庭センターの概要と助産師の役割 備考：常盤・増澤
事前・事後学習	事前学修：地域母子保健に関わる地域の情報を収集し、母子の暮らしにおける母子支援の意義について思いやを考えをメモしておく。 事後学修：授業で学んだ知識を地域母子保健活動にどう活用するか考えを言語化・文章化する。
評価方法、評価基準	到達目標1～5に対して、筆記試験60%、プレゼンテーションとディスカッションへの参加度20%、レポート課題20%により評価する。 レポート課題：子育て世代包括支援における助産師の役割
テキスト	我部山キヨ子（編）（2023）：地域母子保健・国際母子保健、医学書院。
参考図書・資料等	厚生労働統計協会（2024）国民衛生の動向 2024/2025（第71巻第9号），一般社団法人厚生労働統計協会。 母子衛生研究会（2024）：母子保健の主なる統計（令和6年刊行），母子衛生研究会。 宮崎美砂子・他（編）：最新公衆衛生看護学2022年度版 各論1・2，日本看護協会出版会。 標美奈子・他（2022）：標準保健師講座 公衆衛生看護学概論第6版，医学書院。
受講、課題、資料配布等のルール	欠席の場合は必ず担当教員に事前に連絡する。 プレゼンテーション資料は人数分コピーし、授業前に配布する。 プレゼンテーション、ディスカッションは学生が進行する。
教員からのメッセージ	暮らしの中にある母子の健康課題や母子支援について関心をもって観察したり情報を積極的に収集し地域母子保健活動の必要性につなげることを期待する。
オフィスアワー	随時対応（メール調整）。